

### <部活動：拠点校方式>

	大津キャンパス	日置キャンパス	水産キャンパス
運動部	ラグビーなど7	陸上など4	硬式野球など7
文化部	吹奏楽など5	文芸など4	水産科学など3

- ・生徒の移動は民間委託バス。コース変更の融通は利かないが、本数は多く頻繁に出ている。
- ・生徒会活動の移動も、部活バスを利用している。
- ・部の種類と部員数が統合前に比べて格段に増えた。
- ・各校舎に部活指導者が配置されるようにしているが、どうしても置けない場合は、職員が移動することになる。

### <校務運営>

- ・各校舎に各校務分掌の総括課長を置き、3校舎間の校務分掌の調整を図る。
- ・会議が多い。校舎ごとの校務会議、調整のための企画会議、運営委員会、職員会議（年3回の合同職員会議と、それぞれの校舎での職員会議）が基本。
- ・副校長に最大限の権限を持たせる。予算的には20万円までの決裁可能。
- ・校長は曜日指定で3校舎に駐在することになっているが、超多忙で不在が多い。

### <校舎間の移動>

#### ◎職員

- ・基本出張扱い。大津⇄水産間は2キロ未満 大津⇄日置間は約10キロ  
手続きが面倒であるということで、3校舎間をほぼ手続きせずに、フリーで動いているのが実態。
- ・大津⇄日置の移動が校務への影響大。（往復に要する時間30～40分）

#### ◎生徒

- ・県のスクールバスによる生徒の移動については制約厳しく、学校行事等に限る。
- ・部活は民間委託バス。部活以外の突発的な移動には、部所有のバス（及び職員の車）を内々で使用する。

## 施設・設備の充実（再編を機に）

- ・水産キャンパスに5m潜水プール、競泳プール、機関関係、食品製造施設、栽培施設整備
- ・寄宿舎改築  
地上4階、69個室。冷暖房完備。ほぼ満室。月36,000円（食費、電気代含む）
- ・その他にスクールバス、民間委託バス、グラウンド整備、他
- ・水産校舎は特に、施設設備が充実したことで専門的な授業が行えるようになった。
- ・実習船は、福岡県・長崎県・山口県で共有。山口県の遠洋実習は常に3学期。その他に小型船を単独で所有。

今回視察した大津緑洋は3校統合というレアなケースで、説明に当たった校長は県教委での再編担当者。反対運動ではかなり厳しい対応もあったらしく、くじけそうになったが、今ようやく理解されているとのこと。再編しなければ、学校存続の危機という認識に立ち反対を押し切ったが、それと合わせてかなりの予算と人と時間をかけた再編であったと思われる（全て合わせると数億円規模の施設整備）。

校舎制では職員の負担は否めないことも事実。岩手の高校再編の具体的な設計を私たち職員の働き方と、子どもたちの学びの充実、両面から考えていく必要がある。



寄宿舎